



三題噺

「エネルギー・環境・国際性」

山 口 淳*

Jun Yamaguchi

ここ1, 2年前から、従来の酸性雨の問題に加えてエネルギー需要に直結する炭酸ガスなどによる地球温暖化の地球規模環境問題への関心が急に高まり、様々な場で活発な議論がなされてきている。この論議の中では、この課題がボーダーレスなものであることが俄かにクローズアップされ、特に輸入資源に大きく依存しながら世界の経済大国となったわが国にとってはこれまでに経験していなかったような極めて多角的な対応があらためて必要となってきた。

エネルギー供給面では、言い尽くされてきたことながら、エネルギー資源小国の立場からエネルギー供給多様化によるエネルギー安全保証の確保、コストや環境との調和を図るベストミックスの達成がこれまで以上に重要な課題といえる。二度の石油ショックを契機として輸入石油への依存度を軽減する石油代替エネルギーとしてLNGや原子力の利用拡大が急速に進んできた。最終的にはクリーンなエネルギーとして期待されている核融合や水素のエネルギーとしての利用が可能となることが待たれるがいまだ実用化への道程は判然としない。従ってこれから相当長期に亘っては、現在利用されているエネルギー技術の高度化と共に、自然エネルギーや未利用エネルギーの利用拡大などが積極的に進められることが必要となる。ただ、これまで以上に環境との調和、供給の安定性、コストなどを重視しつつ進めることが重要となる。このためには研究開発、技術開発の重要性とバランスのとれた評価のなされることが必要と痛感される。残念ながら一部には、特定の技術に対しての過大な期待感が先走りしている。例えば、太陽や風力に代表される自然エネルギーでは、米国の西海岸地域との比較で日本は消極的と指摘され

ほど日射がよく、雨もほとんど降らず、陸地部と太平洋との大きな温度差から強い東風が午前中から夜までコンスタントに吹くことが繰り返され、しかもこれを利用するための設備を設けるための広大な土地が砂漠や牧場などで極めて安価に得られるというような日本とは全く異なる条件が有利にはたらいっている。その上、この間に得られる電力は電力需要のピークの出現とほぼ一致する好条件が重なる。この点では、残念ながら我が国は恵まれておらず違った知恵を発揮する必要がある。

一方、エネルギー需要の面では二度の石油ショックを契機に我が国では世界でも例がないほどに「省エネルギー」の展開がなされた。省エネルギー型の家庭電気製品や燃費効率の高い自動車の普及、鉄鋼やセメントの製造工程などに代表される省エネルギー・プロセスへの転換などが定着している。既にいろいろな面で高度な便宜性、豊かさが享受できるようになってきた我が国では、「省エネルギー」の意味するものが時代と共に変化し単純な節約だけでなくエネルギーの高効率利用へと新たな展開が必要となってきた。例えば、コジェネレーションや廃熱未利用エネルギーでの熱エネルギーの利用拡大が盛んに提唱されてきている。望ましい方向ではあるが、積極的に展開するには、低質の熱利用が余り普及していないわが国では、供給ネットワークの構築が条件整備として不可欠であり、国策としての展開が望ましいことになる。

エネルギー消費に伴う環境保護の技術対策面でも、我が国では脱硝、脱硫技術とエネルギーの高効率利用の両面から世界に誇れる水準に達していると言えよう。新たに喚起されてきている炭酸ガス問題では、炭酸ガスの放出による地球温暖化の実態やメカニズムの解明、温暖化の影響の解明が科学的にも是非必要であること

* 関西電力㈱

〒530 大阪市北区中之島3-3-22

は論を待たないが、これと共に炭酸ガスの分離、回収、固定、再生利用などの面から研究開発、技術開発を積極的に推進することが必要となる。

我が国の場合には特に、エネルギーの需要計画から環境対策まで全て国際性の強いものであることがこれ

まで以上に広く認識、理解されねばならず、また単に技術移転が可能とすることに止まらないわが国の国際協調、協力が積極的に推進されることが必要と痛感される。

国際シンポごあんない

第9回アルコール燃料国際シンポジウム論文募集のお知らせ

NEDOより事務局に下記の案内が届きましたのでお知らせ致します。

標記第9回アルコール燃料国際シンポジウム (IX ISAF FIRENZE) は、1991年4月9日から12日にかけて、イタリアフィレンツェにて開催予定です。

本シンポジウムは、昭和63年11月にわが国が新エネルギー・産業技術総合開発機構の主催で開催した (VIII ISAF TOKYO) に引き続き、イタリアENIグループのECOFUELが主催するもので、アルコール燃料関係の国際会議では、世界最大級のシンポジウムです。

アルコール燃料をめぐる国際的な潮流は、ますます活発に動いており、東京大会に引き続き、是非皆様の参画をお願い申し上げます。

SCHEDULE			All correspondence or further inquiries
Call for papers	March	31st, 1990	should be addressed to :
Deadline for an extended abstract in English :	July	31st, 1990	Symposium Secretariat
Notification of acceptance :	October	15th, 1990	ISAF-91
Deadline for submission of full paper :	January	15th, 1991	ECOFUEL : S.p.A. (AgipPetroli Sector)
			Viale Brenta 15
			20139 Milan ITALY.
			Telephone : 39-2-520-21923・21947
			Fax Number : 39-2-520-21960
			Telex : 310246 ENI I